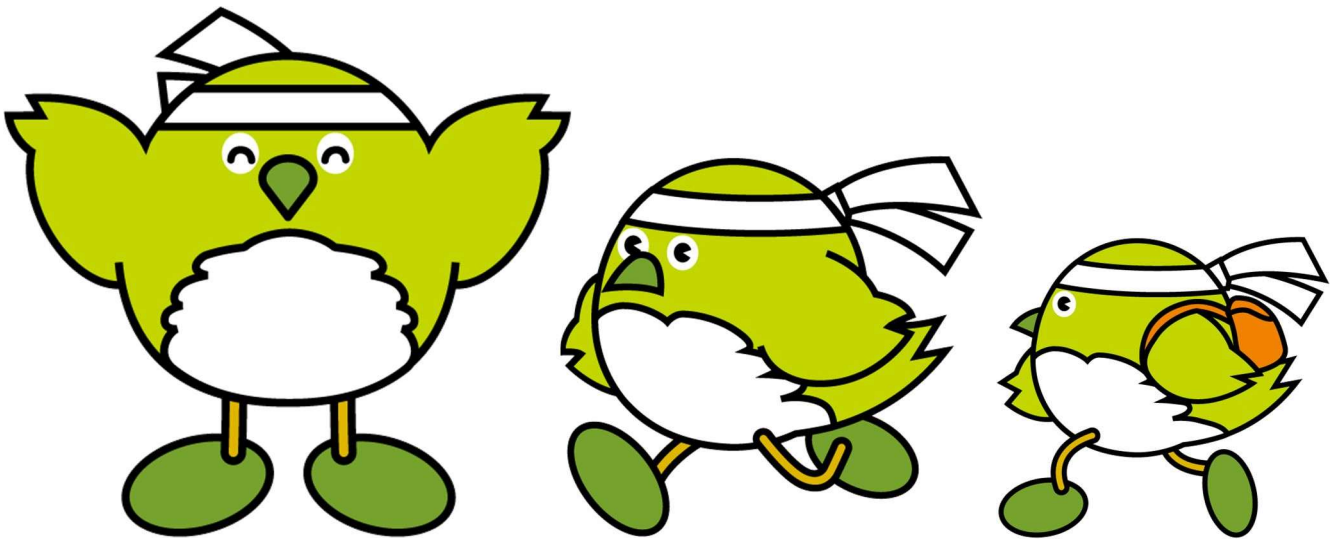


みらい
未来をえがく

キャリア・ノート！

活用・指導の手引き



こうめい
校名()

()

なまえ



大分県教育委員会

—「キャリア・ノート」指導・活用の手引き— はじめに

平成29年3月に告示された学習指導要領第1章総則において、

【第4 児童生徒の発達の支援】

児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要しつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。(その中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。) ※()内は中学校

と規定され、キャリア教育の要となる特別活動の学級活動の内容に「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」が設けられました。

キャリア教育を効果的に展開していくためには、特別活動の学級活動を要としながら、総合的な学習の時間や学校行事、道徳科や各教科における学習、個別指導としての教育相談等の機会を生かしつつ、学校の教育活動全体を通じて必要な資質・能力の育成を図っていく取組が重要です。

また、将来の生活や現実の社会と関連付けながら、見通しをもったり、振り返ったりする機会を設けるなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めることがキャリア教育の視点から求められます。

キャリア教育…教育活動全体の中で基礎的・汎用的能力を育む

基礎的・汎用的能力



人間関係形成・社会形成能力

他者を理解する力、コミュニケーション・スキルなど…
人とつながる力



自己理解・自己管理能力

自己の役割の理解、自己の動機付け、忍耐力、主体的行動など…
自律する力



課題対応能力

情報の処理、課題発見、計画立案、実行力など…
課題発見・解決の力



キャリアプランニング能力

学ぶこと・働くことの目的・意義の理解、将来設計など…
将来を見通す力

意思決定

特別活動が学校全体で行うキャリア教育の要

学級活動(3)
一人一人のキャリア
形成と自己実現

見通しと振り返り

教材の活用

小・中・高等学校の
つながりの明確化

学級活動(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、**児童生徒が活動を記録し蓄積する教材等(=キャリア・パスポート)を活用すること。**

キャリア教育を効果的に推進していくために

校長の
リーダーシップ

職場見学等
機会の確保

校内の組織体制
整備

幅広い地域住民
等との連携・協働

指導計画の作成



「キャリア・ノート」とは？

学習指導要領 第6章特別活動 第2の3 内容の取扱い

2の(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。

その際、**児童(生徒)が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。**



- 振り返って気付いたことや考えたことなどを、児童生徒が記述して蓄積する、いわゆる**ポートフォリオ的な教材**のようなものを使用することを示している。
- 特別活動での実践や各教科等における学習過程に関することはもとより、学校や家庭における日々の生活や、地域における様々な活動なども含めて、教師の適切な指導の下、児童生徒自らが記録と蓄積を行うとともに、それらを振り返りながら、新たな生活や学習への目標や、将来の生き方などについて**記録していく教材**のこと。



「キャリア・ノート」は、児童生徒の進級・進学時に次の学年・上級学校に持ち上がり、小学校から高等学校まで継続的かつ系統的に蓄積していきます。

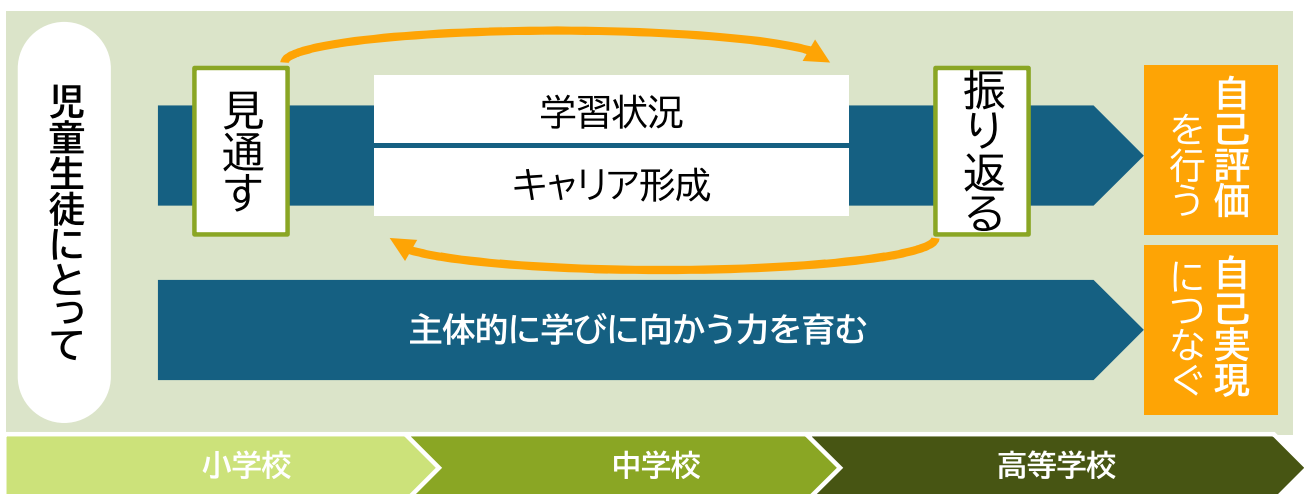
「キャリア・ノート」の目的

小学校から高等学校を通じて、**児童生徒にとって**

- ・自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行う
- ・主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなげる

教師にとって

- ・記述をもとに対話的にかかわることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導につなげる



と教師に

「キャリア・ノート」の記述をもとに、

対話的にかかわることによって、児童生徒の成長を促す

系統的な指導に資する

「キャリア・パスポート」の様式例と指導上の留意事項より



「キャリア・ノート」活用の意義や効果は？

「キャリア・ノート」を活用することの意義

教育活動全体で行うキャリア教育の要としての特別活動の意義の明確化

小学校から中学校、高等学校へと系統的なキャリア教育の推進につながる

児童生徒にとって…自己理解を深めるためのもの
教師にとって……児童生徒理解を深めるためのもの

学習指導要領解説特別活動編(小学校:p81~83、中学校:p71~73)

①児童生徒の自己理解を深める

「キャリア・ノート」は、児童生徒にとって、自己理解を深めるためのものになります。

学習や生活の「見通し」を持ち、「振り返り」を積み重ねることで、児童生徒は自分の変容や成長を自覚することができます。それを基に、教師と対話したり、児童生徒同士と話し合いをしたりすることを通して、自分自身のよさ、興味・関心など、多面的・多角的に自己理解を深めることができます。

②教師による児童生徒の理解を深める

教師にとっては、「キャリア・ノート」を通して、児童生徒一人一人の様々な面に気付き、児童生徒自身の自己の見通しに寄り添った関わりを通じて、理解を深めることができます。

また、各教科等の学習や学校行事等を計画・実践する中で、資質・能力が育成されているかを見取るツールとなります。

③主体性・協働性を育む

「キャリア・ノート」の活用を通して、育成すべき資質・能力を軸に学校の教育活動をつなげることで、学びに向かう力を構成する主体性や協働性等を育むことができます。

④児童生徒との関わり方を家庭と共有する

保護者との個人懇談等の資料として活用することなどを通して、児童生徒一人一人のキャリア発達を促す関わり方について共有することができ、学校と家庭が連携を深めることにつながります。

⑤系統的なキャリア教育の充実につながる

小学校から高等学校までの各段階で内容を蓄積していくことを通して、発達段階に応じた系統的なキャリア教育の充実につながります。

また、学年間・校種間連携の資料として活用できます。

⑥カリキュラム・マネジメントに役立つ

教育活動全体における学校行事や創造的な学習の時間、特別活動の位置づけが明確になるため、カリキュラム・マネジメントの評価・改善の材料として活用することができます。



POINT!

指導に当たっては、

- キャリア教育の趣旨や学級活動全体の目標に照らし、書いたり蓄積したりする活動に偏重した内容の取扱いにならないようにする。
- プライバシーや個人情報保護に関して適切な配慮を行う。



「キャリア・ノート」活用方法や内容は？

- 「キャリア・ノート」は、各学年の始め、学期末、学年末に活用することを基本とします。
- 各学年の始めに今の自分や将来の展望、今年度の目標等を考えます。
- 各学期・学年の終わりに今までの自分を見つめ直し、目標の実現状況等を確認します。
- 記述されたものを活用して、今年度の振り返りを行います。
- 振り返りを行うための基礎資料として、日常的に児童生徒の活動の記録等を蓄積しておきます。
- 記述や自己評価の指導には、教師が対話的に関わり、一人ひとりの目標作成や修正などを支援します。
- 肯定的に関わり、個性を伸ばす指導を心がけながら、学校・家庭・地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養っていきます。

学年の始め

年間を通じて

学年の終わり

4年生のわたし 記入日 月 日 曜日

♪わたってこんな人です♪

①こんな4年生になる！せんき

②自分のとく豊かなことやしよう案のゆめ

③こんな自分になりたい！ そのためにすることはこれ！

学 習

生 活

学級のみんなのために

お手伝いや嬉しいことのかかわり

【記入からのメモページ】

振り返り ページ

わたしのあこがれの人

4年生冬休みまで振り返って

4年生夏休みまで振り返って

夏休みまでのことを思い出して書きましょう。

記入日 月 日 曜日

学校でがんばったこと

学 習

生 活

各教科等、学級活動、
学校行事、クラブ活動(小)、
家庭・地域での活動等に
係る記録 など

4年生のわたしを振り返って 記入日 月 日 曜日

なりたい自分にどれほど近づけたか、自分のがんばりを見つけよう
がんばったことをくわしく書こう

学 習

生 活

学級のみんなのために

お手伝いや嬉しいことのかかわり

どのくらいできたか、○をつけよう。	よくできた	できた	もういい
①自分の期待通り、友だちに分かりやすく伝えられたか			
②クラスや友だちのために、進んで行動したか、きょうだいたりできましたか			
③誰かのためにやろうとしたことがあるか、自分から進んで先生にいつかたり、まで振り返りできましたか			
④来よう案のゆめや目標をどうやってがんばったか、勉強や生活態度を振り返るの心算ができたか			

○どんな4年生になりたいですか、せんきしましょう！

【おとなからのメモページ】

- 児童生徒が自ら記入し、学期、学年、入学から卒業までの学びを見通し、振り返るとともに、将来を展望することができるような内容で構成しています。
- 「キャリア・ノート」で扱うのは、学校生活全体及び家庭、地域における学びを含む内容となります。そのため、教科の学習のみ、学校行事等のみの自己評価表とならないよう、
 - ①教科等での学習
 - ②教科等外での学習
 - ③学校外の活動
 } などを含めた見通しや振り返りができるような内容としています。
- 自己有用感の醸成や自己変容の自覚に結び付けられるように、周りの大人(家族や教師など)からのコメントを記入する欄を設けています。家庭等の負担に配慮しつつ、各学校の実情に応じて、誰にコメントを書いてもらうかを検討してください。



振り返りの資料となる活動の記録の蓄積は？

- 学校ではこれまでも「〇〇ノート」や「〇〇の振り返り」などをして「キャリア・ノート」に類する教材や各教育活動に関する活動で各学校が用いているワークシートを作成・活用してきました。それらは、キャリア・ノートの基礎資料となる活動の記録として活用が可能です。（日ごろから蓄積しているものを活用）
- 蓄積に当たっては、「キャリア・ノート」の様式を基に学年や入学から卒業までの中・長期的な振り返りと見通しができるように留意します。
- キャリア教育は、学校の教育活動全体で取り組むものであり、それぞれの取組が学級活動に偏らないよう留意することが大切です。教科等や学校行事等での取組も考えられます。



「キャリア・ノート」以外にも、活動の記録を蓄積していかなければならないのですか？

みなさんの学校では、学校行事のあとや総合的な学習の時間などに振り返りを児童生徒が書いていませんか？それを蓄積、活用するとよいです。



なるほど！今、実践していることを蓄積・活用すればよいのですね。例えば、宿泊学習のしおりに記入した振り返りも基礎資料になりますか？

十分活用できるものとなります。その際、宿泊学習のねらい（めあて）を明確にして、振り返りを書けるように支援していくことが大切です。



これまで担任した学級では、年度始めに自己紹介カードを教室に掲示したり、学期末や各学年末に振り返りの時間を設けたりしてきましたが、それらの取組もつながりますか。

それらは、まさに「キャリア・ノート」そのものです。また、児童生徒の活動の記録にもなりますね！



POINT!

【振り返りの資料となる活動の記録蓄積のポイント】

- キャリア教育は学校の教育活動全体で取り組むものであり、「キャリア・ノート」は児童生徒一人一人の学びや育ちを「轍」として蓄積するものです。
- 各学校においては、これまでの教育活動で取り組んできたことをキャリア教育の視点から捉えなおしつつ、これまでの取組を活かすことが大切です。



小学校・中学校における活用イメージは？

- 「キャリア・ノート」は、児童生徒一人一人の「自己理解の深まり」や「自己実現に向けた意欲の高まり」などを継続的・系統的に支援していくために、小学校から中学校卒業までの9年間、引き継いでいきます。
- 学年・校種を超えて、将来への展望や見通し、自身のキャリア形成に生かせるようにしていきます。
- 各学校においては「キャリア・ノート」を活用し、児童生徒一人一人のキャリア発達を支援することが大切です。

【キャリア発達についての捉え方】

(平成14年国立教育政策研究所生徒指導研究センター)

小学校	中学校	高等学校
進路の探索・選択にかかる 基盤形成の時期	現実的探索と 暫定的選択の時期	現実的探索・試行と 社会的移行準備の時期
<ul style="list-style-type: none"> 自己及び他者への積極的関心の形成・発展 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的自己理解と自己有用感の獲得 興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成 進路計画の立案と暫定的選択 生き方や進路に関する現実的探索 	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解の深化と自己受容 選択基準としての勤労観、職業観の確立 将来設計の立案と社会的移行の準備 進路の現実吟味と試行的参加

小学校

4年 年度始めに目標を書き、1年間の見通しをもちます。学期末や年度末に書いたものと比べ、振り返ります。

②自分のとく意なことやしよう来ゆめ

好きなことは、ともだちと話をすること。しよう来ゆめは、すいぞく館ではたく人。

③こんな自分になりたい！ そのためにすることはこれ！

学習 分からないことをそのままにしない	・自分でしらべる ・しつもんする
生活 あいさつをする	あいてのことを考える

自分を知ろう

○自分のよいところや得意なことは、どんなことですか。
ねばりつよくとりくむ

○今、熱中していることはどんなことですか
スイミング スキューバダイビング 海洋学者

○将来の夢や仕事につくために、どのようなことをしなければならぬと思いますか。
本をたくさん読む 興味のあることは最後まで調べる

○小学校6年間を振り返ってみて、どんなことを感じましたか。
1年生のころはできないことが多かったけれど、だんだんできることが増えて成長したと思いました。

○中学生になって、がんばってみたいことはどんなことですか。また、どんな中学生になりたいですか。

6年間分を読み返すと、何が好きで、何をがんばってきたかが分かります。

中学校

1年

こんな大人になりたい(将来の夢) 人の役に立てる大人になりたいです。

そのために、付けたい力 努力する 勉強をがんばる

2年

こんな大人になりたい(将来の夢) いろいろな人の意見などを聞いていろいろな価値観を持つようになりたい

そのために、付けたい力 人の話をよく聴いて考えること

3年

こんな大人になりたい(将来の夢) 体が不自由な方などに寄りそい、支えられる大人

そのために、付けたい力 普段からのコミュニケーションや行事にも力強く取り組むことを大せかにしたい。

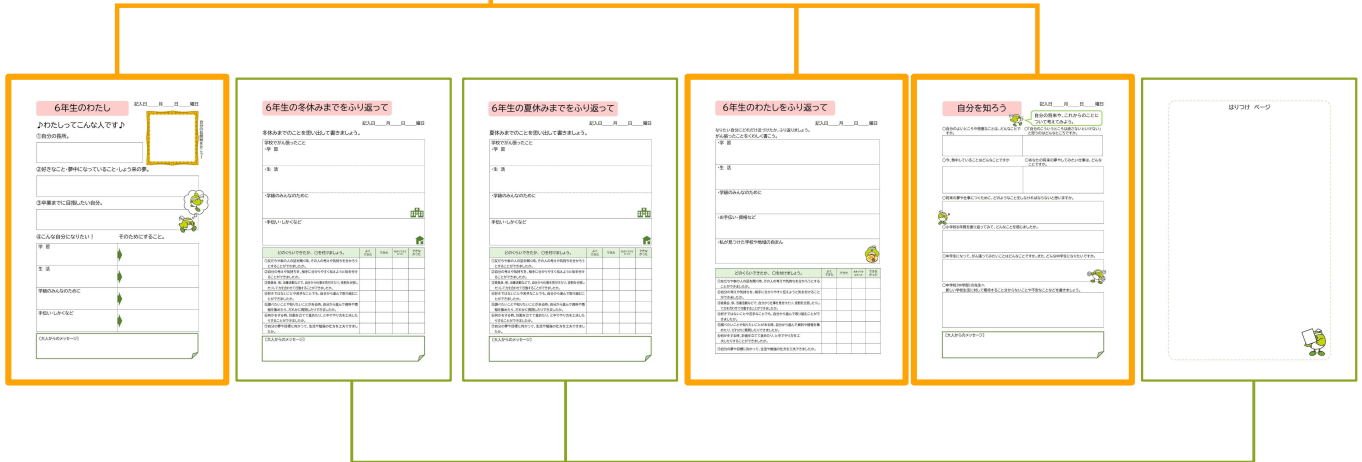
振り返ってみると、夢や身に付けたい力が具体的になっていることがわかります。

高等学校へ

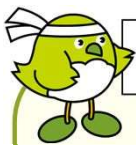


「キャリア・ノート」の活用について

必ず書き込むページ (蓄積するページ)



各校で作成した様式を使用してもよい
(ページに上から貼り付けて保存する)



POINT!

○必ず書き込むページ

各学年、以下の2ページは必須の内容です。(小6は3ページ)

- ・年度始めの目標設定ページ
- ・年度終わりの振り返りページ
- ※6年生の「自分を知らう」ページ

○中間の2～3ページ

中間のページの内容の指定はありません。

各学校の実態に応じて

- ・学校独自のキャリア教育の取組
- ・地域の魅力に気付き、勤労や職業等に関して学んだことを振り返る内容
- ・行事や学習の振り返り
- ・ワークシート等

を貼付・記録しましょう。

どのような学校行事を取り上げ蓄積するかは、各学校の実態に合わせて決定し、原則学年内で統一するようにしてください。

○中間ページの様式について

- ・県の指定様式でなく、学校で作成した独自様式を使用してもよいです。
※その場合は「キャリア・ノート」に貼り付けること！
- ・掲載ページ以外の内容を大分県教育委員会のHPに例示しています。

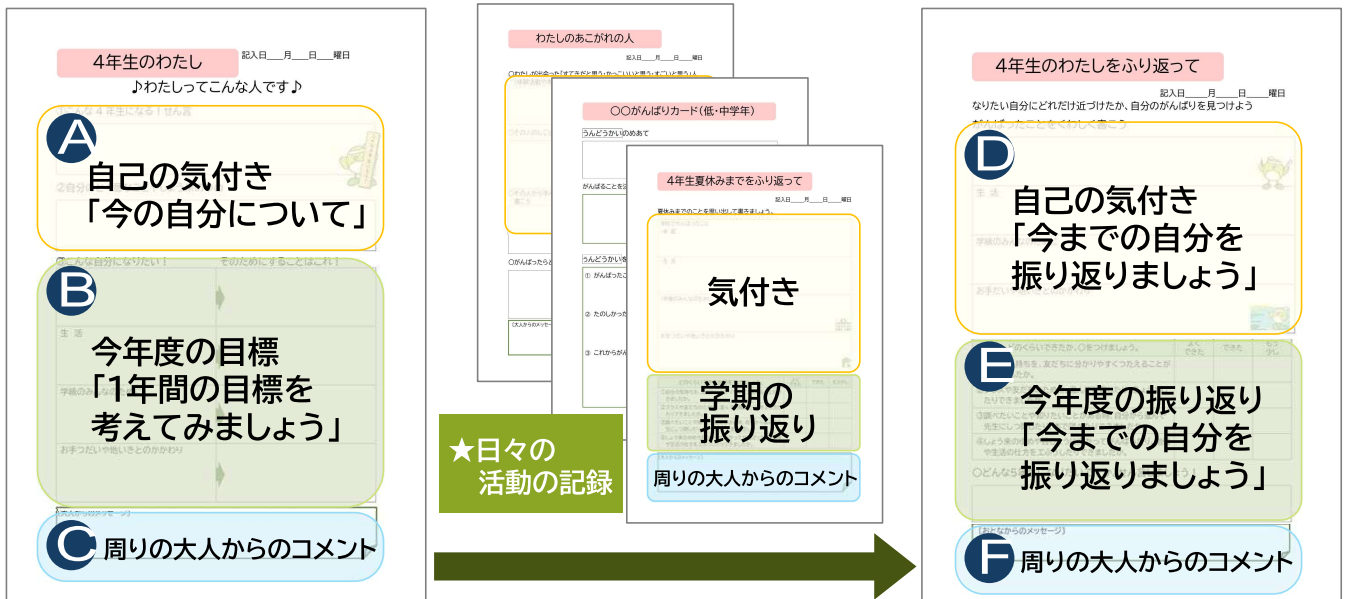
○蓄積する媒体について

- ・別紙で取り組んだものは「キャリア・ノート」に直接貼り付けて蓄積・保管してください。



「キャリア・ノート」を活用する時期は？

学習指導要領解説特別活動編(平成29年7月)なども確認して、ご指導ください。



「キャリア・ノート」の構成 (R8～)

- ① 【年度の始め】に記入するページ……………A・B・C
 - ② 【学期末(中間)】に記入するページ
「キャリア・ノート」に振り返り等を記入する際の基礎資料となる、
「日々の活動の記録」……………★
 - ③ 【年度の終わり】に記入するページ……………D・E・F
- ◆ はりつけページ

※令和8年の改訂版から、各学年の最後に「はりつけページ」を追加しています。
日々の活動の記録を選んで貼り付けることができます。
また、「日々の活動の記録(★)」に活用できるページの例示を大分県教育委員会のHPに掲載しています。



POINT!

「〇年生のわたし」、「〇年生の私を振り返って」、「自分を知ろう(小6)」が「キャリア・ノート」の必須ページです。
それをつなぐ日々の活動の記録の蓄積がポイントです。



「キャリア・ノート」を活用する時期は？

1 年度始め(4月)「キャリア・ノート」(A・B・C)の活動

4月

【〇年生のわたし】 今の自分・今年度の目標・将来への展望

4年生のわたし 記入日__月__日__曜日
♪わたしってこんな人です♪

A 自己の気付き
「今の自分について」

B 今年度の目標
「1年間の目標を
考えてみましょう」

C 周りの大人からのコメント

A

- ◆ 学級活動(3)一人一人のキャリア形成と自己実現
- ◆ 特別の教科 道徳
- ◆ (生活科)総合的な学習の時間
- ◆ その他の教育活動

B

※各教科等の特質及びねらい、学習過程を踏まえる。

C

家族や教師などのコメント

※「キャリア・ノート」の意義やねらい、活用イメージについて事前に保護者にも説明し協力を依頼する。

A・Bをそれぞれ異なる時間で取り組むことも考えられる。

【年度の始め】に記入するページ……A・B・C について

A「今の自分について」・B「今年度の目標」を記入する時間としては、

- ・学級活動(3)一人一人のキャリア形成と自己実現
- ・特別の教科 道徳
- ・生活科や総合的な学習の時間
- ・その他の教育活動

の時間が考えられます。

その際、各教科等の特質やねらい、学習過程を踏まえることが大切です。
A・Bをそれぞれ異なる時間で取り組むことも考えられます。

C「周りの大人からのコメント」欄には、児童生徒がA・Bを記入した後に、家族や教師からのコメントを記入します。

- ・保護者には、「キャリア・ノート」の意義やねらい、活用イメージについて、事前に説明し、協力を依頼しておくことが大切です。
- ・大人が対話的に関わり、児童生徒のキャリア発達を促すことが重要です。児童生徒の実態を踏まえ、誰にコメントをもらうか設定します。



POINT!

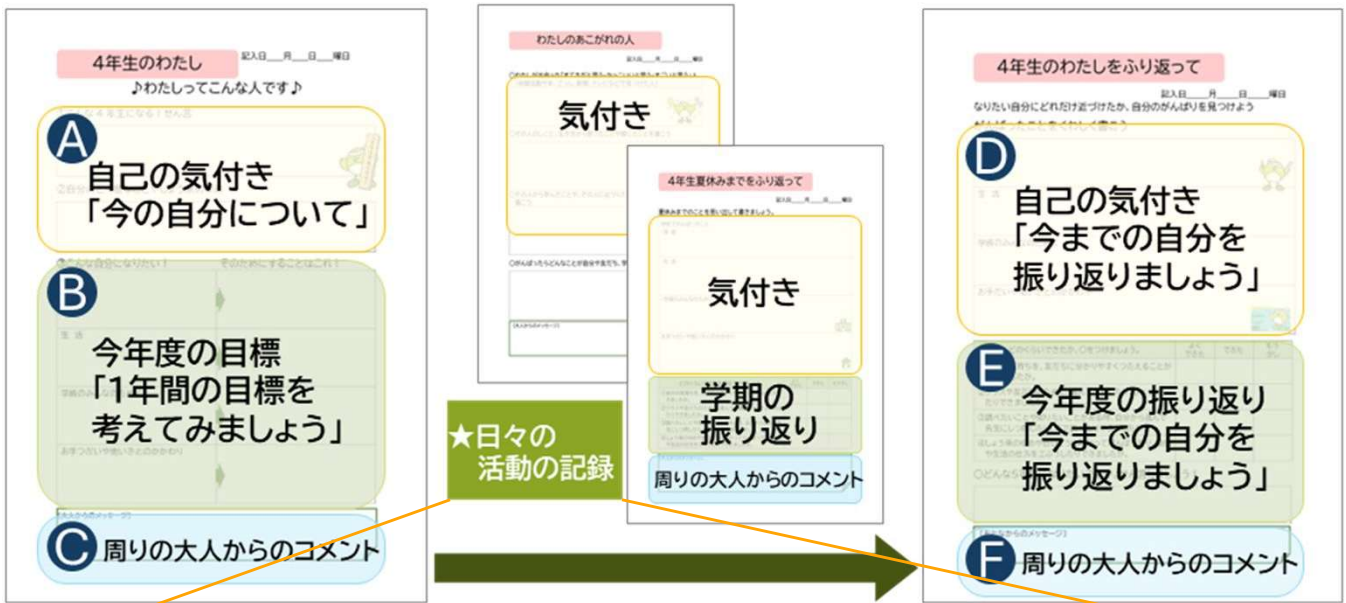
各学校において、すでに取り組んでいることと重なる部分があります。

「〇年生のわたし」をどの時間に、どのように記入し、活用するかイメージをしておくことが大切です。



「キャリア・ノート」を活用する時期は？

2 年間を通じた「日々の活動の記録」の蓄積



4月～3月（学期ごと）

★ 日々の活動の記録

【学校行事】

- ・運動会
- ・学習発表会
- ・修学旅行
- ・宿泊学習
- ・校外学習
- 等

【生活科・総合的な学習の時間】

- ・生活科の内容(1)～(9)
- ・体験活動(職場体験 等)
- ・探究的に学習してきた内容 等

特別の教科 道徳

各教科 等

学級活動、クラブ活動、
児童(生徒会)活動

学校や家庭・地域生活



POINT!

【★日々の活動の記録】について

- ・1ページでも説明していますが、キャリア教育は学校の教育活動全体で取り組むものです。各教科等や学校行事等での取組も考えられます。
- ・各学校では、これまでも学校行事や各教科等、特別活動、その他の学校生活等において、日常的に振り返り等を記録していると思います。それを基礎資料として活用できるように蓄積しておきます。学期末や学年末に「キャリア・ノート」を記入する際、児童生徒が蓄積しておいた基礎資料の中から自由に選択し、「〇年生のわたしを振り返って」の記述に生かします。
- ・これまでも取り組んできたこと、日常的に取り組んでいたことを基礎資料として活用します。



「キャリア・ノート」を活用する時期は？

3 学期末・学年末の「キャリア・ノート」(D・E・F)の活動

学期末
学年末

【〇年生のわたしをふり返って】
期末・年度の振り返り 自己の気付き・将来展望

4年生のわたしをふり返って

記入日 月 日 曜日

なりたい自分にどれだけ近づけたか、自分のがんばりを見つけよう
がんばったことをわくわく書こう

D 自己の気付き
「今までの自分を振り返りましょう」

E 今年度の振り返り
「今までの自分を振り返りましょう」

F 周りの大人からのコメント

D
E

- ◆ 学級活動(3)一人一人のキャリア形成と自己実現
- ◆ 特別の教科 道徳
- ◆ (生活科)総合的な学習の時間
- ◆ その他の教育活動

※各教科等の特質及びねらい、学習過程を踏まえる。

F

家族や教師などのコメント

D・Eをそれぞれ異なる時間で取り組むことも考えられる。

【年度の終わり】に記入するページ……D・E・F について

D・Eは「今までの自分を振り返る」もので、記述したり、○を付けたりします。記入する時期としては、

- ・学級活動(3)一人一人のキャリア形成と自己実現
- ・特別の教科 道徳
- ・生活科や総合的な学習の時間
- ・その他の教育活動

の時間が考えられます。

その際、各教科等の特質やねらい、学習過程を踏まえることが大切です。

D・Eをそれぞれ異なる時間で取り組むことも考えられます。

F「周りの大人からのコメント」欄には、児童生徒がD・Eを記入した後に、家族や教師からのコメントを記入します。

- ・児童生徒に近い存在である大人からのコメントが児童生徒に与える影響は大きいです。児童生徒の家庭状況に配慮しつつ、保護者からコメントを書いてもらうよう、事前に依頼しておくことが大切です。
- ・できるようになったかだけでなく、できるようになるために児童生徒が努力したことを肯定的に捉え、励ましたり、背中を押したりするような言葉かけが大切です。



POINT!

- 活動の記録を蓄積したり「キャリア・ノート」を記入したりするだけでなく、それらを用いて話し合う活動などを取り入れるとより効果的な振り返りになります。
- 「キャリア・ノート」を単なる記録にとどめず、日々の教育活動の中で育成される「振り返る力」と「キャリア・ノート」を関連付けることを意識することが重要です。各学校が日常的に取り組んでいる、各教科等や様々な教育活動で自身の考えを振り返ったり、表現したりする機会を活用することが考えられます。



「キャリア・ノート」活用・指導上の留意点は？

①キャリア・ノートの管理について

- 「キャリア・ノート」の管理は、原則として学校が行ってください。
- 「キャリア・ノート」には個人情報が含まれる場合があるため、紛失しないよう十分留意してください。

②教師との対話、児童生徒同士の話し合いを大切にする

「キャリア・ノート」を用いて、できる限り大人(家族や教師など)が対話的に関わるようにしてください。

また、教師が記録を活用してカウンセリングを行うなど、児童生徒の理解や一人一人のキャリア形成に努めることが重要です。形式的な記入にとどまらないよう、児童生徒の頑張りを教師等の大人が認めているというメッセージを返すことも有用です。

ただし、特別活動の内容である学級活動の時間の中で、個別の面接や面談を実施することは、学習指導要領の内容と合わないため適切ではありません。

③指導する時に配慮すること

「キャリア・ノート」は、学習活動で活用することから、日常の活動記録やワークシートなどの教材と同様に次のような指導上の配慮が必要です。

- 児童生徒の個々の状況を踏まえ、本人の意思と異なる記録を強いたり、無理な対話に結び付けたりしないようにすること。
- 書くこと等支援が必要な児童生徒には個に応じた適切な対応を行うようにすること。
- 学年間・学級間で「キャリア・ノート」の活用や指導状況に差が生じないようにするため、学年会等において適宜進捗を確認するようにすること。
- 「自己への気付き」「自己の振り返り」等、主に児童生徒の自己評価が中心にあるため、「キャリア・ノート」の記述や取組状況をそのまま学習評価としないこと。

④配慮が必要な児童生徒への対応

特別支援学級に在籍する児童生徒、通級による指導を受ける児童生徒、特に特別な配慮を要する児童生徒については、個々の状態や特性および心身の発達の段階等に応じた記録・蓄積・指導となるよう配慮してください。

⑤保護者への周知と協力の依頼

「キャリア・ノート」の取組については、学校だよりなどにおいて、保護者に周知してください。その際、「キャリア・ノート」は「小学校入学から中学校卒業まで、その後の進路も含め、児童生徒のキャリア形成の過程を記録し、学校段階を超えて活用することを目的とするため、進学先の学校に持ち上がっていくこととなる」旨を伝えてください。

また、必要に応じて児童生徒への言葉かけを行ったり、コメントを記入してもらうようにするなどの依頼を行ってください。



「キャリア・ノート」はどのように引き継げば？

①学年間

学校で管理することから、原則として教員間で行うようにしてください。

②校種間(小→中、中→高)

①県内の公立学校に進学する場合(小学校→中学校)

原則として、小学校卒業時に進学先の中学校ごとにとりまとめ、児童が進学する中学校へ提出するようにしてください。確実に引き継ぐため、教師間で行うようにしてください。

②県内の県立学校に進学する場合(中学校→高等学校)

原則として、中学校卒業時に、「キャリア・ノート」を生徒に返却し、生徒自身が保管します。県立高等学校の「キャリア・ノート」に中学校時代の振り返りを書くページがあるので、それを書くときの参考とすることが考えられます。

③国立学校、他県の公立学校、私立等の学校に進学する場合

卒業時に「キャリア・ノート」を児童生徒に返却し、児童生徒自身が保管します。進学先の学校から指示があれば、それに沿って対応するようにします。

③転出・転入等

転出する児童生徒に「キャリア・ノート」を返却し、転入する学校に提出するよう指示をしてください。

また、転入してきた児童生徒には、転入前の学校で作成した「キャリア・ノート」の提出を必ず指示してください。

④引継ぎ対象

「キャリア・ノート」のみを引き継ぐこととします。

原本を引継ぎ、写しを学校において保管をする必要はありません。

なお、児童生徒の進学先・転学先の学校から「キャリア・ノート」以外の教材(活動の記録等)の提供を求められた場合は、当該の児童生徒の実情に応じて、学校間で相談してください。



○ 次のページから、各学年における「キャリア・ノート」の記入・活用に際してのポイントページごとに示しています。

○ それぞれの項目における記入・活用についてご確認ください。